

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

Shear wave elastography を用いた絨毛膜外性胎盤と正常胎盤の硬度の比較

1. 研究の対象および研究対象期間

2024 年 11 月～2025 年 5 月に昭和医科大学横浜市北部病院の産婦人科で妊娠 28 週以降に分娩した患者さん

2. 研究目的・方法

妊娠中の胎盤のかたさは、妊娠高血圧症候群や赤ちゃんの発育不全（赤ちゃんが小さい）と関係していることが分かってきています。しかし、胎盤のどの部分を測るのが一番よいかは、まだはっきりしていません。

胎盤の形のひとつに「絨毛膜外性胎盤」と呼ばれるものがあります。これは胎盤のふちが白く盛り上がって見えるタイプで、妊娠のおよそ 4 人に 1 人にみられます。このタイプの胎盤では、ふちの部分がもともと硬いことがあります。それ自体は異常を意味するわけではありません。つまり、正常な分娩でも「ふち」が硬いことがあるのです。もし胎盤のふちを測ると「硬い＝異常」と間違えて判断してしまう可能性があります。

そこで本研究では、28 週以降に分娩となった方のうち、双子や合併症のある妊娠などを除いた、比較的正常に近い分娩例を対象に、胎盤の「ふち」と「中央」のかたさを比べます。あわせて、お母さんの妊娠経過や出産の結果にも違いがあるかを調べます。

この研究によって、胎盤のふちが硬いからといって必ずしも異常ではないことを確認し、将来的には胎盤を測定するときに「中央を測ることの大切さ」を明らかにできると考えています。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026 年 3 月 31 日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

赤ちゃんが生まれた後、私たちは胎盤の重さや厚さ、硬さなどを通常の診療として測定しており今回はその情報を用います。お母さんのバックグラウンド（年齢、お産歴があるか、妊娠前の BMI、妊娠方法、妊娠糖尿病があるか、妊娠高血圧症候群があるか）、分娩の結果（分娩週数、促進剤を使ったか、

分娩方法、赤ちゃんの体重、胎盤の重さ・厚さ・硬さ、男児か女児か）を電子カルテから調査します。

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません

6. 研究組織

研究責任者 研究機関名 昭和医科大学横浜市北部病院 氏名 奥山亜由美

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学横浜市北部病院

氏名：奥山亜由美

住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話番号：045-949-7768